資料 4

狩猟鳥モニタリングに係るアンケート調査結果

１．アンケートの概要

＜アンケートの趣旨＞

・ 狩猟者による捕獲の意思や出猟状況等について把握し、狩猟数減少との関係性を検討するための材料とする。
・ 対象鳥類は、本州・四国・九州在住者に対しては、ヤマドリ、バン、ヤマシギ、タシギ、クロガモの計５種類。北海道在住者に対しては、クロガモ、エゾライチョウの計２種類。

＜質問内容＞

・ 回答者の属性（年齢構成、主な狩猟対象、狩猟免許の種類、狩猟年数等）
・ 狩猟対象としての魅力と出猟状況
・ 捕獲数の増減

＜対象＞

・ 鳥類を主に狩猟対象としている全都道府県（沖縄県を除く）の全日本狩猟倶楽部の会員の中から、事務局により現在も活発に活動している方 300 名（内、北海道在住者は 14 名）を選出した。

＜アンケート依頼・回収方法＞

・ 環境省（請負者：自然環境研究センター）より、（一社）全日本狩猟倶楽部に対し協力を依頼。これを受けて、（一社）全日本狩猟倶楽部事務局より選出された会員にアンケートへの協力を依頼。
・ 各県１～16 名（平均６名）程度ずつ（北海道のみ 14 名）選出した対象者へアンケートを発送。
・ アンケートの送付及び回収方法は郵送とした。

＜実施期間＞

・ 平成 26 年 10 月 23 日（木）から 11 月 28 日（金）までを実施期間に設定したが、回答状況等により、12 月 20 日まで延長した。

＜結果のフィードバック＞

・ アンケート結果をとりまとめた上で、（一社）全日本狩猟倶楽部の会報誌「全猟」により結果をフィードバックする予定。

＜アンケートの回収状況＞

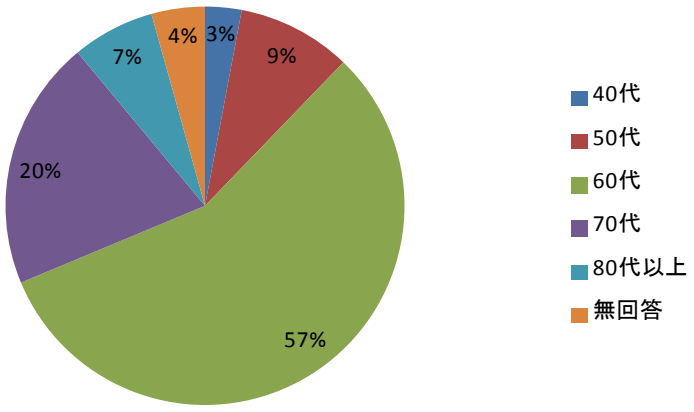
種	発送数（通）	回収数（通）	回答率（%）	発送先の地域
ヤマドリ	286	137	47.9	本州・四国・九州
バン	286	80	28.0	本州・四国・九州
ヤマシギ	286	111	38.8	本州・四国・九州
タシギ	286	97	33.9	本州・四国・九州
クロガモ	286	73	25.5	本州・四国・九州
クロガモ	14	5	35.7	北海道
エゾライチョウ	14	6	42.9	北海道

2. 回答者の属性

○ 回答者の年齢構成

アンケート対象種（7種）における年代別回答件数（1 人の回答者が複数の種についての回答含む）

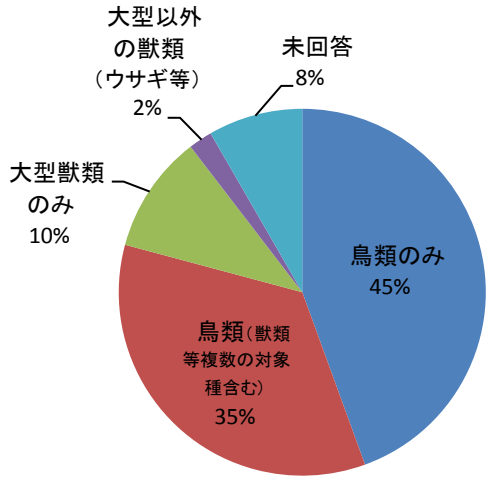
年代	設問：【ご本人】についてお聞きします						
	回答件数						
	ヤマドリ	バン	ヤマシギ	タシギ	クロガモ	エゾライチョウ	合計
40代	5	2	2	3	2	1	15
50代	13	8	10	9	6	1	47
60代	78	44	66	55	42	2	287
70代	27	16	21	20	17	2	103
80代以上	7	7	7	7	6	0	34
無回答	7	3	5	3	4	0	22
総計	137	80	111	97	77	6	508



回答者の年齢構成（1 人の回答者が複数の種についての回答含む）

○ 主な狩猟対象

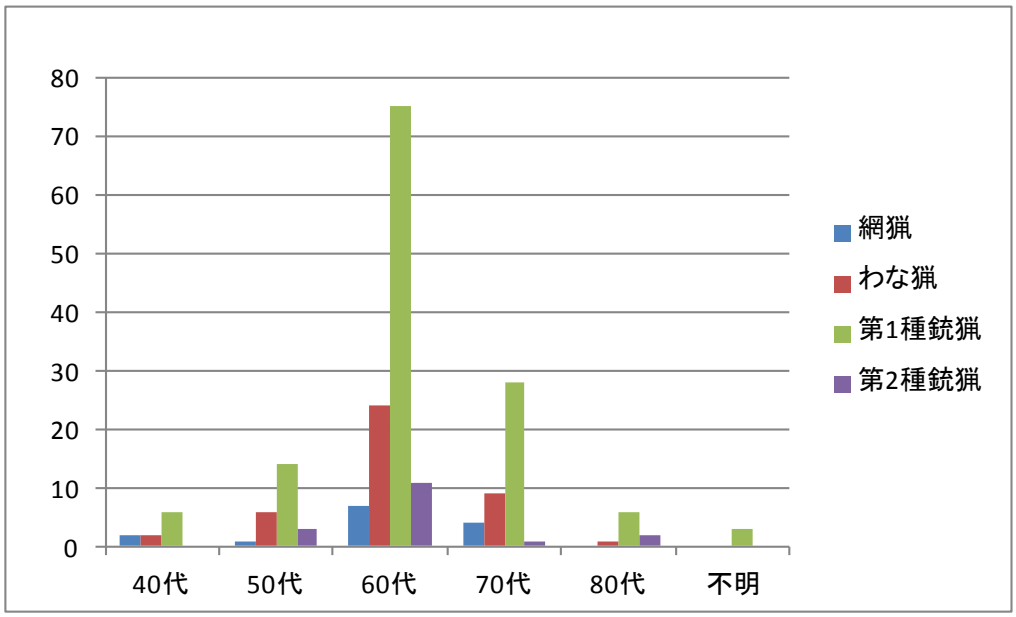
主な狩猟対象としているものの回答件数



狩猟対象	人数	割合（%）
鳥類のみ	64	44
鳥類（獣類等複数の対象種含む）	50	35
大型獣類のみ	15	10
大型以外の獣類（ウサギ等）	3	2
未回答	12	8
合計	144	100

○ 年代別の狩猟免許の種類

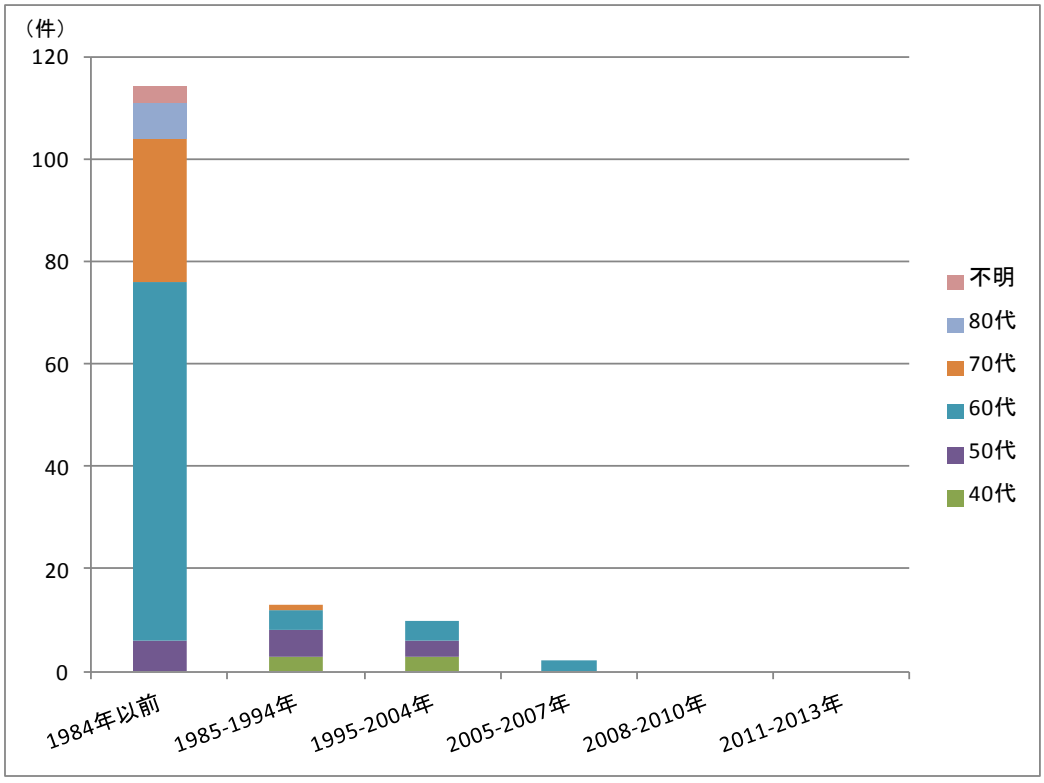
年代	件数			
	網猟	わな猟	第1種銃猟	第2種銃猟
40代	2	2	6	0
50代	1	6	14	3
60代	7	24	75	11
70代	4	9	28	1
80代	0	1	6	2
不明	0	0	3	0
計	14	42	132	17



○ 狩猟免許を取得した年度

狩猟免許を取得した時期別の回答件数（複数の免許を所有する場合、最も古い時期を抽出）

年代	1984年以前	1985-1994年	1995-2004年	2005-2007年	2008-2010年	2011-2013年	不明	合計
件数	114	13	10	2	0	0	5	144
割合（%）	79.2	9.0	6.9	1.4	0.0	0.0	3.5	100.0



- 回答者は 60 代（57%）が最も多く過半数を占め、次いで 70 代（20%）、50 代（10%）と続いた。なお、60 代から 80 代で全体の 80%以上を占めた。
- 主な狩猟対象は、鳥類のみが 45%（64/144）、鳥類（獣類等複数の対象種含む）が 35%（50/144）と両者で 80%を占めており、<u>鳥類を主な狩猟対象</u>としている方からの回答が得られたものと考えられる。
- 免許を取得した時期は、回答者の 79%（114/144）が 1984 年以前であったことから、以後の設問にある「狩猟免許取得当時」は、<u>1984 年以前の状況を強く反映</u>すると考えられる。

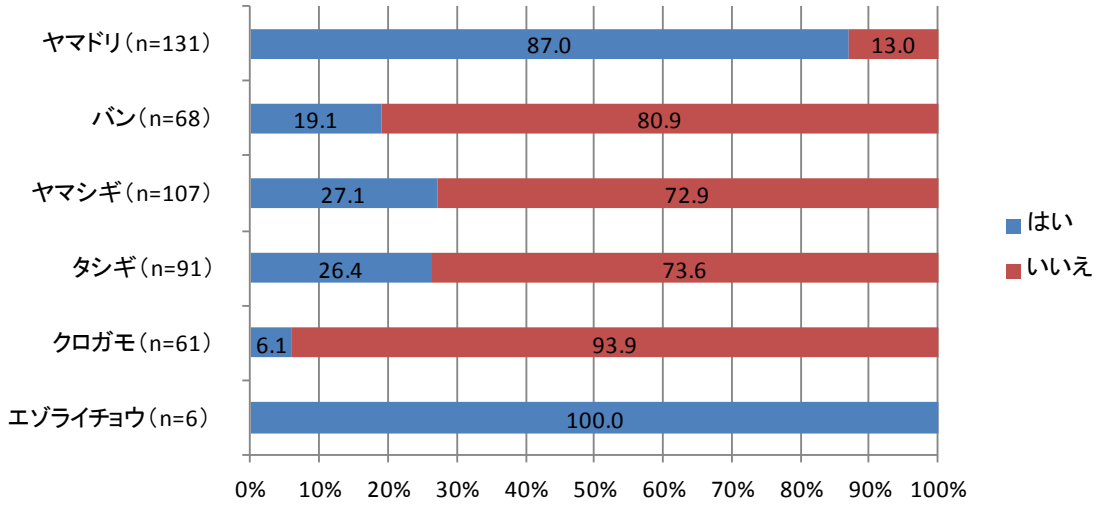
3. 狩猟者の意向

○ 狩猟対象としての魅力（免許取得当時と現在の比較）

狩猟者の意向に関する回答件数

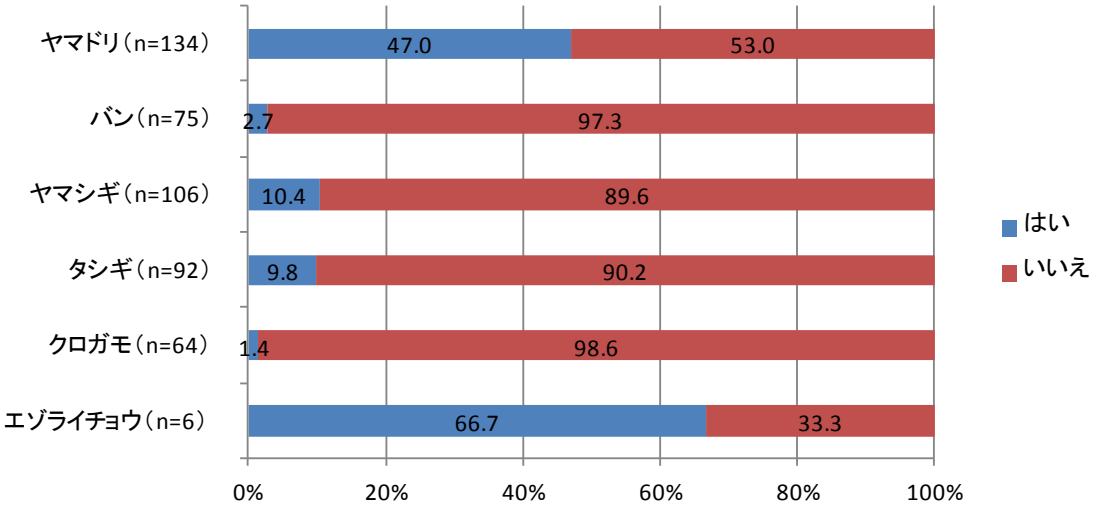
鳥類	設問3		設問4							
	狩猟免許取得当時は、今より獲りたいと思っていましたか		現在、狩猟対象として積極的に獲りたいですか		積極的に獲りたい理由（複数回答可）			積極的には獲りたくない理由（複数回答可）		
	はい	いいえ	はい	いいえ	肉の利用	楽しい	その他	肉の利用がない	楽しくない	その他
ヤマドリ	114	17	63	71	20	56	19	10	10	51
バン	13	55	2	73	1	1	0	19	24	30
ヤマシギ	29	78	11	95	6	6	1	22	28	41
タシギ	24	67	9	83	6	7	0	17	29	35
クロガモ	4	62	1	68	0	1	0	32	16	20
エゾライチョウ	6	0	4	2	5	1	2	1	1	0

設問３：狩猟免許取得当時は、今よりも獲りたいと思っていましたか



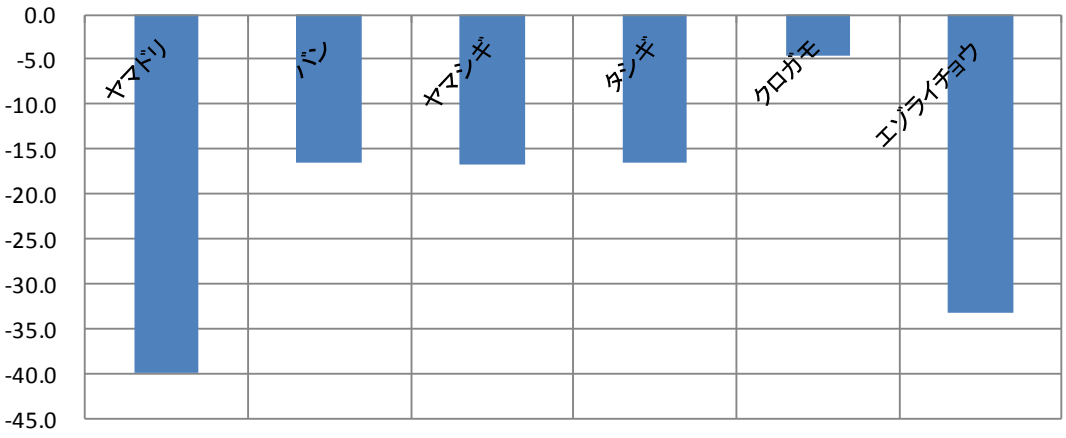
全回答者の集計（数字は%）

設問４：現在、狩猟対象として積極的に獲りたいですか



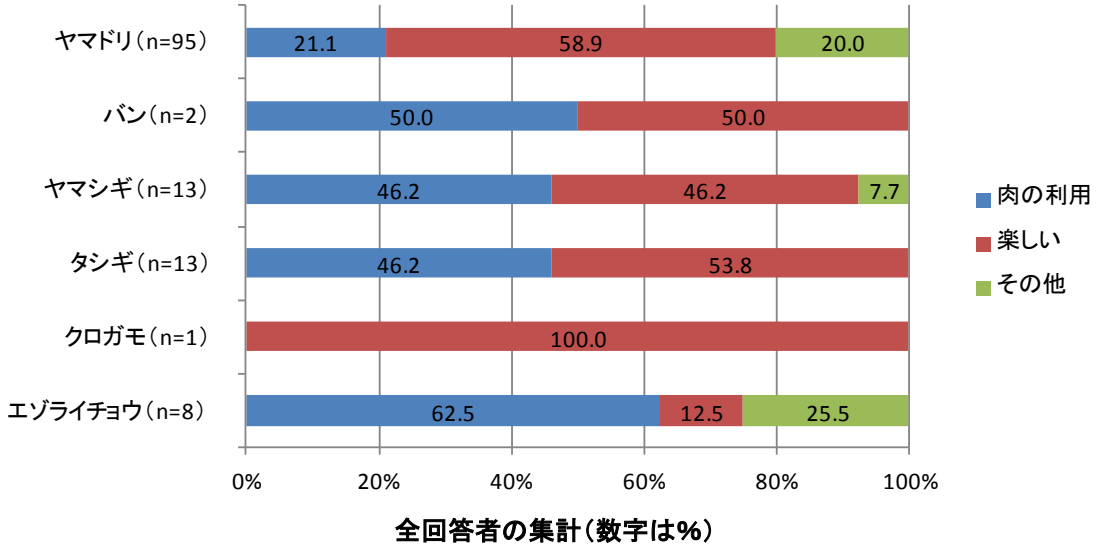
全回答者の集計（数字は%）

○ 狩猟者の意識変化（免許取得当時と現在の比較）



- 免許を取得した時と現在との狩猟意欲の変化としては、すべての種で現在の狩猟意欲が減っていた。
- ヤマドリの落ち込みが大きいが、過去の狩猟意欲が高かったことによると考えられる。
- バン、ヤマシギ、タシギ、クロガモについては、過去の狩猟意欲が低かったため、差が大きく現れなかったと思われる。
- エゾライチョウについては、サンプル数が少ないため本来の結果を反映していない可能性が高い。

【積極的に獲りたい】理由（全回答：複数回答あり）



その他の内訳（ヤマドリ）

獲りたい理由（その他）	件数
はく製のため	5
犬との猟が魅力	3
犬の訓練	2
尾羽が魅力的	2
民家が無いので安心	2
キジの次の対象種	1
犬と一緒がいい	1
専用の犬がいる	1
未記入	2
総計	19

積極的に獲りたい理由

【ヤマドリ】：狩猟が楽しいと肉の利用を挙げていた。少数では、はく製作成のためという回答が多かった。

【バン】：狩猟が楽しいと肉の利用が１名ずつであった。

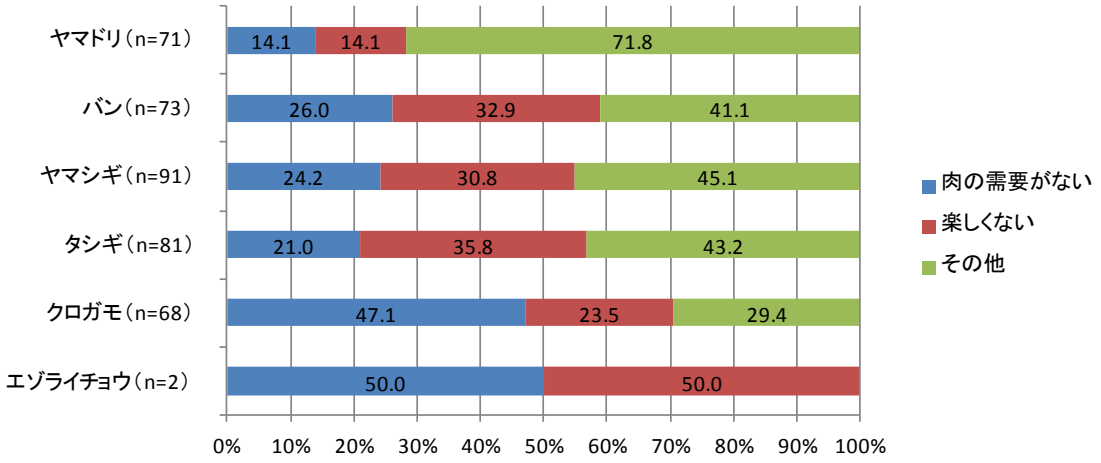
【ヤマシギ】：狩猟が楽しいと肉の利用が６名ずつであった。

【タシギ】：狩猟が楽しいと肉の利用（それぞれ６名と７名）であった。

【クロガモ】：狩猟が楽しいとする答えが１名からあった。

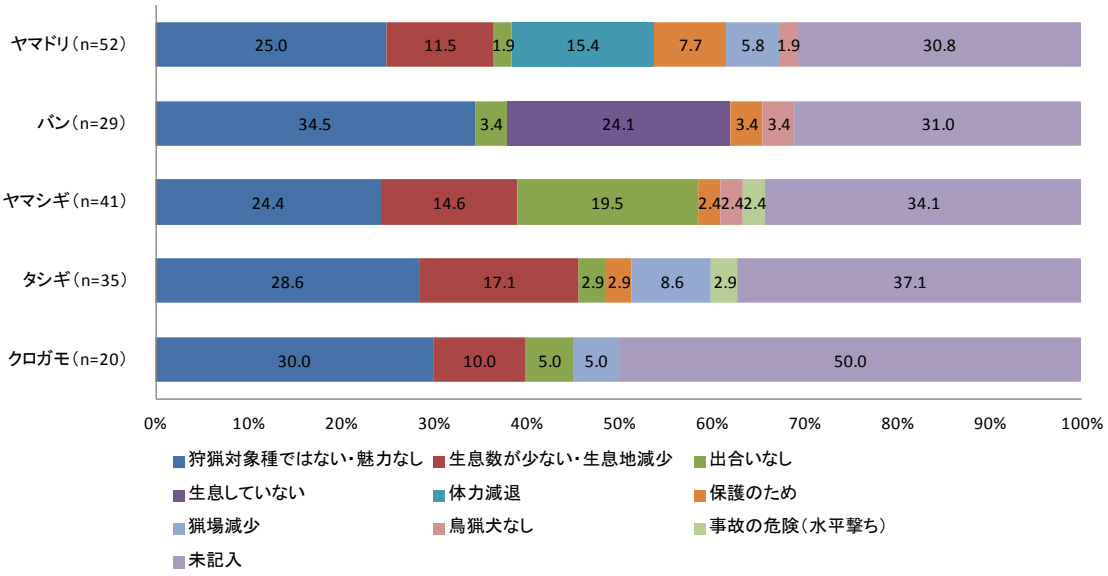
【エゾライチョウ】：肉の利用とする答えが５名からあった。

【積極的には獲りたくない】理由（全回答：複数回答あり）



全回答者の集計（数字は%）

その他の内訳



全回答者の集計（数字は%）

積極的に獲りたくない理由

- ヤマドリを除いて、「肉の需要がない・楽しくない」とする回答が多かった。
- その他の理由の内訳では、すべての種で「**対象種ではない・魅力がない**」との回答が多かった。

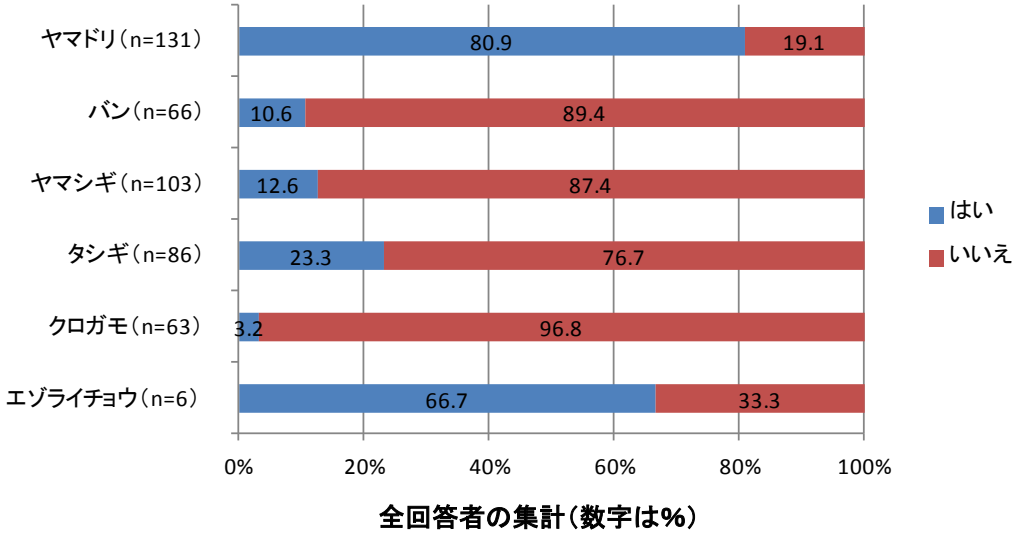
4. 狩猟者の行動

○ 出猟の状況

出猟に関する回答件数

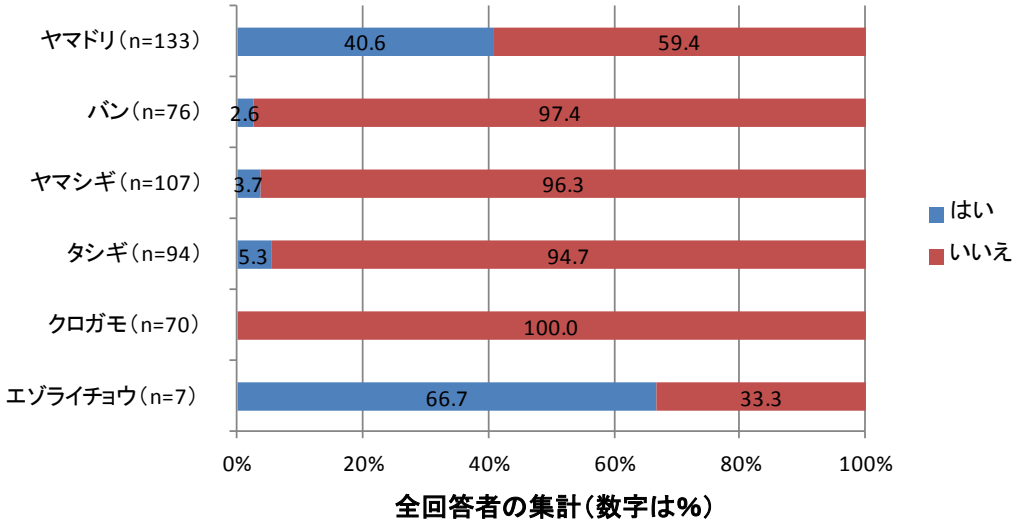
鳥類	設問3		設問5								
	当時は今よりも対象種目的で出猟していましたか		実際に、現在も対象種目的で出猟していますか		「積極的には獲りたくないが、出猟することがある」という方は、その理由を選択下さい		現在、出猟しない理由を選択して下さい				
	はい	いいえ	はい	いいえ	誘い	その他	時間がない	体力が不安	事故が怖い	獲物がいない	その他
ヤマドリ	106	25	54	79	6	9	3	23	2	34	28
バン	7	59	2	74	0	1	2	2	9	37	22
ヤマシギ	13	90	4	103	0	1	3	5	5	56	34
タシギ	20	66	5	89	0	0	4	3	9	51	26
クロガモ	2	61	0	70	0	0	4	2	0	40	26
エゾライチョウ	4	2	4	2	0	0	1	0	0	0	1

設問３：狩猟免許取得当時は今よりも対象種を獲る目的で出猟していましたか



全回答者の集計（数字は%）

設問５：現在、対象種を獲る目的で出猟していますか

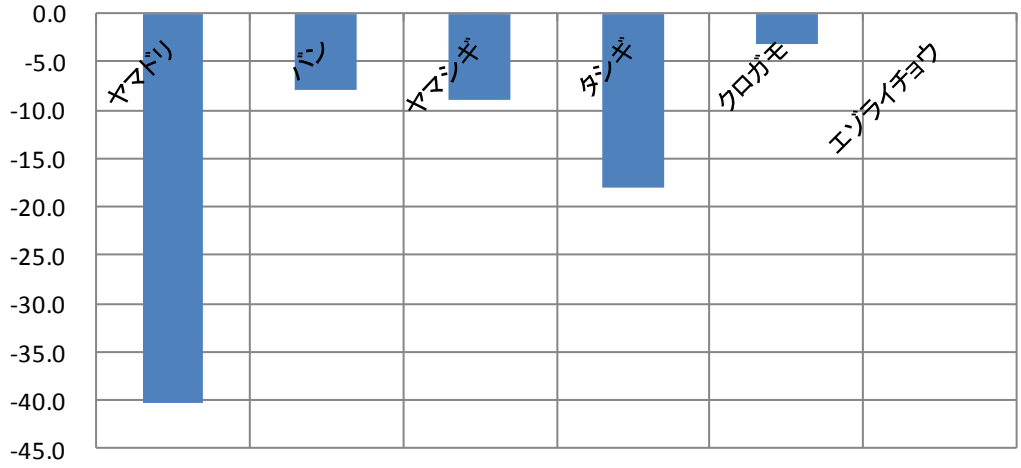


全回答者の集計（数字は%）

狩猟期間のうち、対象種が最も多く捕獲できる時期

【ヤマドリ】：12 月～１月とする回答が多かった。早い方で 11 月（１例：福島）、
　　遅い方は２月（４例：高知、徳島、山口、和歌山）であった。
【バン】：11 月～12 月（２名）であった。
【ヤマシギ】：12 月とする回答が最も多かった（４名中３名）。
【タシギ】：11 月とする回答が最も多かった（５名中３名）。
【クロガモ】：出猟者がいなかった。
【エゾライチョウ】：、11 月とする回答が最も多かった（４名中３名）。

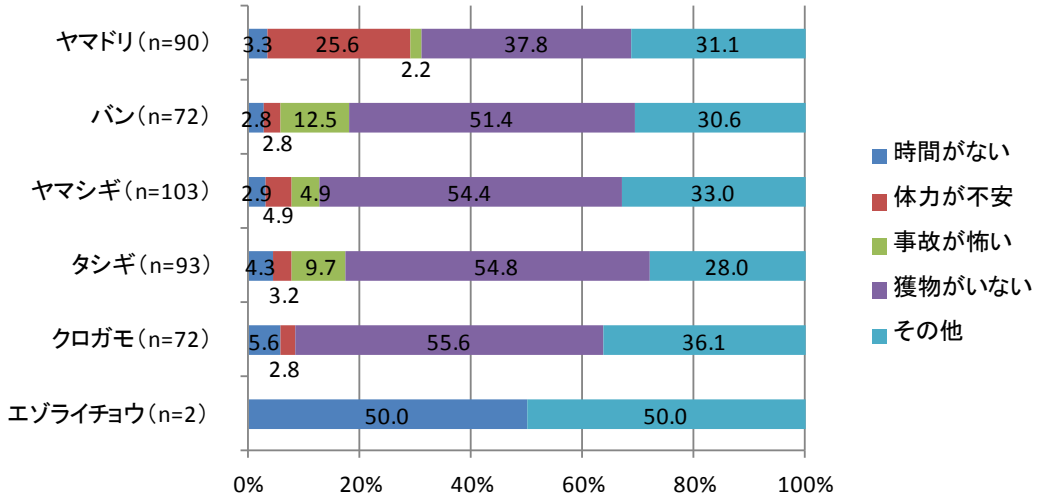
○ 狩猟者の行動変化（免許取得当時と現在の比較）



対象種を目的とした出猟状況の変化（数字はポイント）

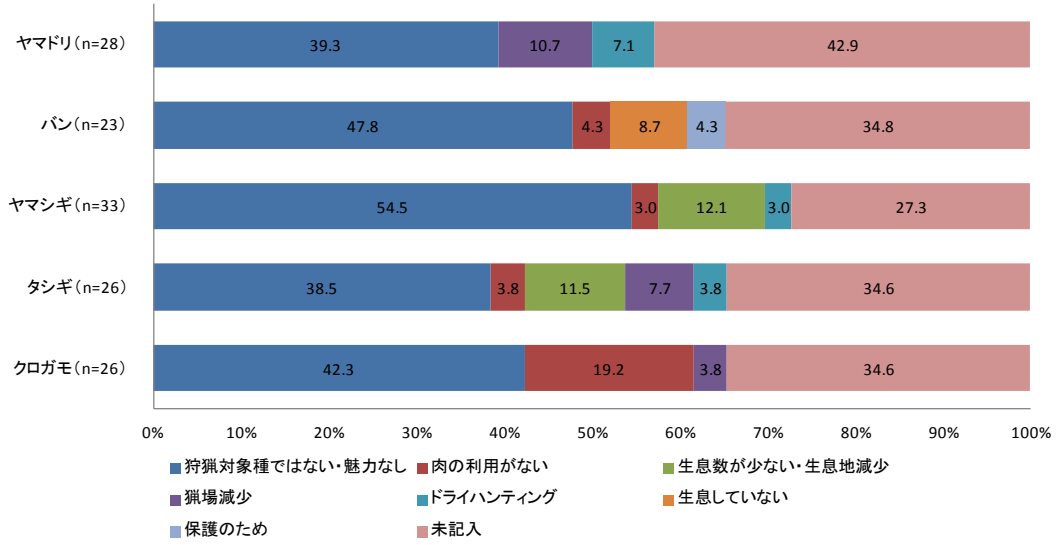
・ 免許を取得した時と現在との出猟状況の変化としては、すべての種で現在の出猟状況が減っていた。
・ ヤマドリの落ち込みが大きいが、過去の出猟状況が高かったことによると考えられる。
・ バン、ヤマシギ、タシギ、クロガモについては、過去の出猟状況が低かったため、差が大きく現れなかったと思われる。
・ エゾライチョウについては、サンプル数が少ないため本来の結果を反映していない可能性が高い。

【現在、出猟していない理由】の理由



全回答者の集計（数字は%）

その他の内訳

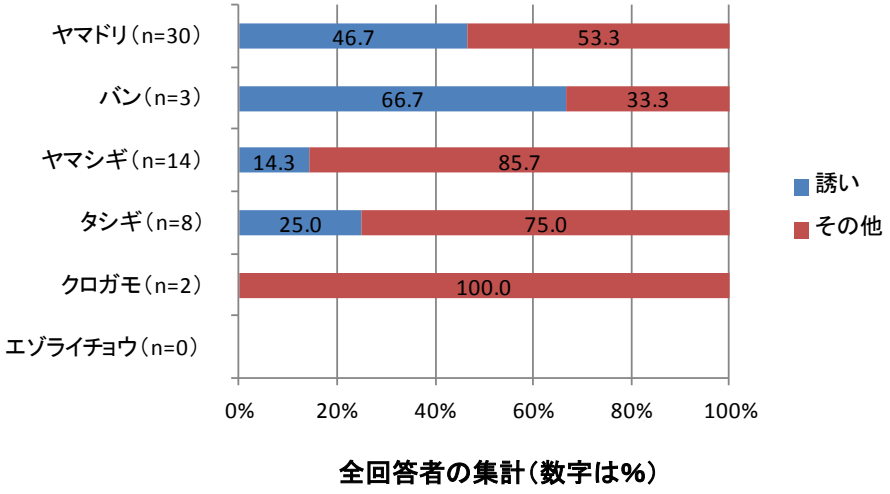


全回答者の集計（数字は%）

現在、出猟していない理由

- すべての種で、「**獲物がいない**」とする回答が多かった。
- ヤマドリでは「**体力が不安**」とする回答が特に多く見られた。
- バンとタシギでは、「**事故が怖い**」とする回答が多く見られた。
- その他の理由の内訳では、すべての種で「**対象種ではない・魅力がない**」との回答が多かった。

【積極的には獲りたくないが、出猟することがある】の理由



全回答者の集計（数字は%）

積極的には獲りたくないが、出猟することがあるその他の理由

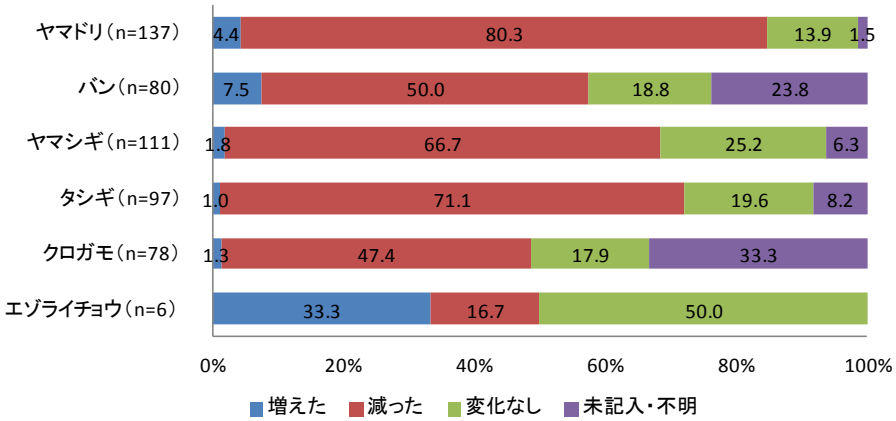
【ヤマドリ】：その他の意見としては「健康・運動のため」や「生息数確認」といった理由であった。

【バン】：その他の意見としては「食べたくなったら」という理由であった。

【ヤマシギ】：その他の意見としては「キジ猟などの外道」いった理由であった。

【タシギ・クロガモ】：その他に記述がなかった。

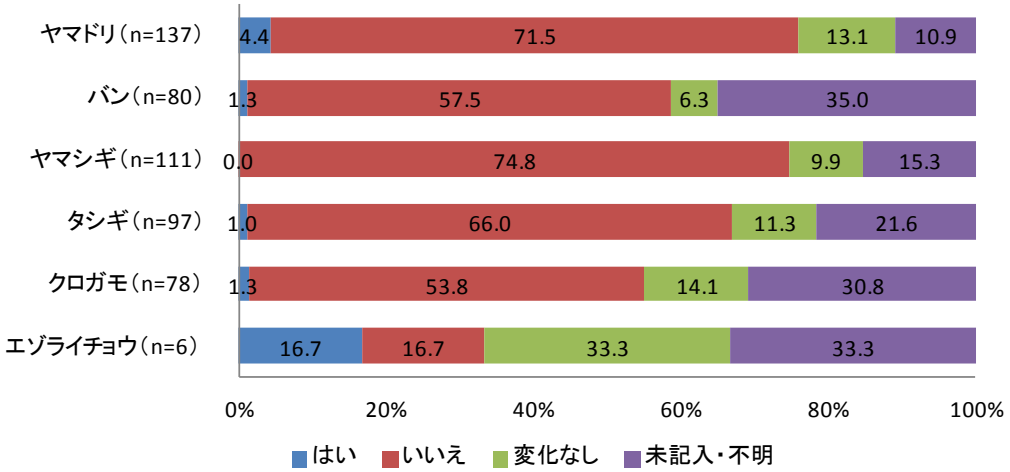
設問２：狩猟免許取得当時と比べて、主な猟場での対象種の生息数は、近年ではどうなったと思いますか。



全回答者の集計（数字は%）

・　エゾライチョウを除き「減った」とする回答が圧倒的に多かった。

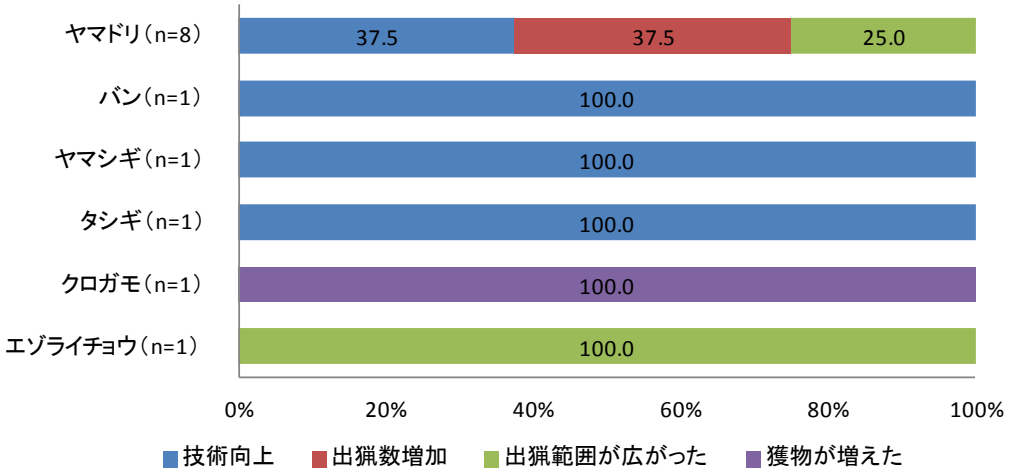
設問６：現在、実際に出猟した際、免許取得当時より多く獲れていますか。



全回答者の集計（数字は%）

・　エゾライチョウを除き「<u>獲れていない</u>」とする回答が圧倒的に多かった。

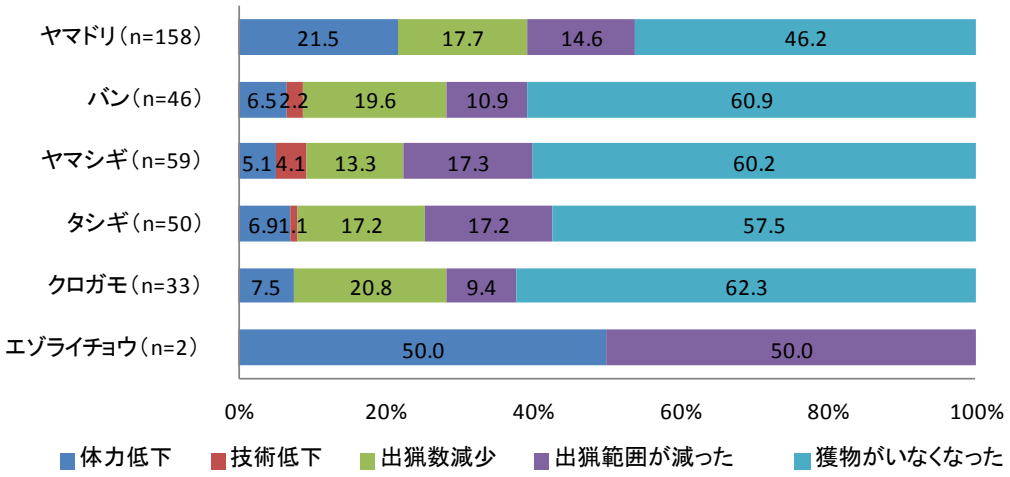
【はい】理由（全回答：複数回答あり）



全回答者の集計（数字は%）

・　回答数が少ないため何とも言えないが、概ね「<u>技術の向上</u>」とする回答が圧倒的に多かった。

【いいえ】理由（全回答：複数回答あり）



全回答者の集計（数字は%）

- エゾライチョウを除き「**獲物がいなくなった**」とする回答が圧倒的に多かった。

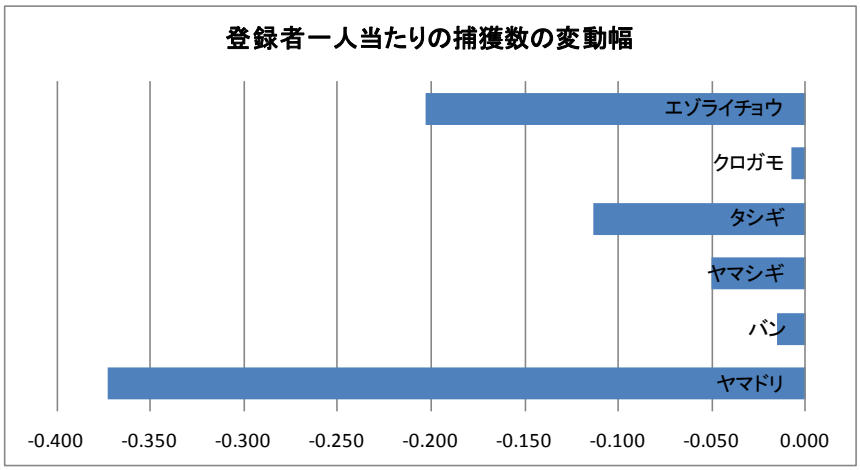
4. 捕獲数の減少傾向と狩猟者の意向、出猟状況との関係性

現状では、狩猟者が減少していることに加え、狩猟者が対象鳥類を捕獲したいと思わなくなり、また、実際に出猟しなくなったことが、対象鳥類の捕獲数減少に影響していると考えられることから、以下の検討をおこなった。

- 今回調査で得られた狩猟者の出猟状況の変化と、一人当たりの捕獲数の減少について、関連性を検討した。
- 今回調査結果は 1984 年以前の免許取得者の回答を強く反映していると考えられるため、一人当たりの捕獲数についても、1984 年と近年（2011 年）の値を比較した。

狩猟登録者一人当たりの捕獲数と出猟状況の変動幅

	登録者一人当たりの捕獲数			出猟状況
	1984年	2011年	変動幅	変動幅
ヤマドリ	0.465	0.091	−0.373	−40.3
バン	0.020	0.005	−0.015	−8.0
ヤマシギ	0.054	0.004	−0.050	−8.9
タシギ	0.130	0.017	−0.113	−17.9
クロガモ	0.010	0.003	−0.008	−3.2
エゾライチョウ	0.247	0.044	−0.203	0.0



- 今回調査結果によると、特にヤマドリの出猟状況の減少が顕著であった。一方、減少幅の小さかったのはクロガモであった。エゾライチョウの出猟状況の減少幅はなかったものの、サンプル数が小さかったことから実際の値を反映していない可能性がある。

- 一人当たりの捕獲数についても、ヤマドリの減少幅は大きく、クロガモはほとんど変化がなかった。他の種においても、サンプル数が少なかったエゾラ

イチョウを除き、狩猟者の出猟状況と一人当たりの捕獲数は、相互に関係性があるものと考えられる。

・ 過去において捕獲意欲が高く、実際に出猟者も多かったヤマドリは、アンケートにより、近年の狩猟者の体力減退や狩猟対象の変化などによって捕獲数が減少していることが示唆された。

・ ヤマドリ及びエゾライチョウ以外の４種については、アンケートによると昔から狩猟資源としての魅力（狩猟者の捕獲意欲）に乏しく、実際の狩猟状況も低かった。近年は、さらに捕獲意欲、出猟機会の減衰したことによって捕獲数が減少しているものと考えられる。

５．モニタリング手法としての有効性

・ アンケートは、狩猟現場における実態把握には適していると思われる。今回アンケート調査のような手法により、狩猟者の動向については、モニタリング情報の一つとして活用することが可能と考えられる。